

ヨット部



1988(昭和63年)・秋 関東学生選手権にて。470級のマーク回航。クルー(前側の乗員)はトラピーズという装置で艇外に体をのりだしてバランスを保っている。本艇が風上マークに到達、マーク回航に入る寸前の緊張した場面。



1933(昭和8年) 第1回全日本大会優勝(平松・伊藤組)。



1935(昭和10年) 第1回早慶戦。両校出場メンバー。



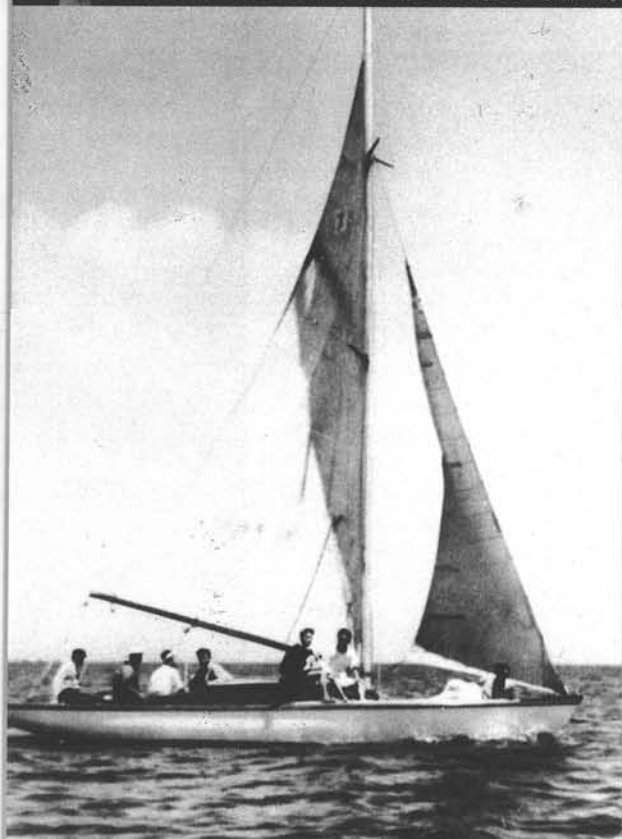
1938(昭和13年)・秋 体育会正式加入の年。全勝祝賀会。



1947(昭和22年) 戦後初の全日本に優勝。主食を持参して参加した。



1947(昭和22年) 戦後初の早慶戦スタート直後。



1949(昭和24年) この年購入の27フィートクルーザー、'アーゴノート'号。



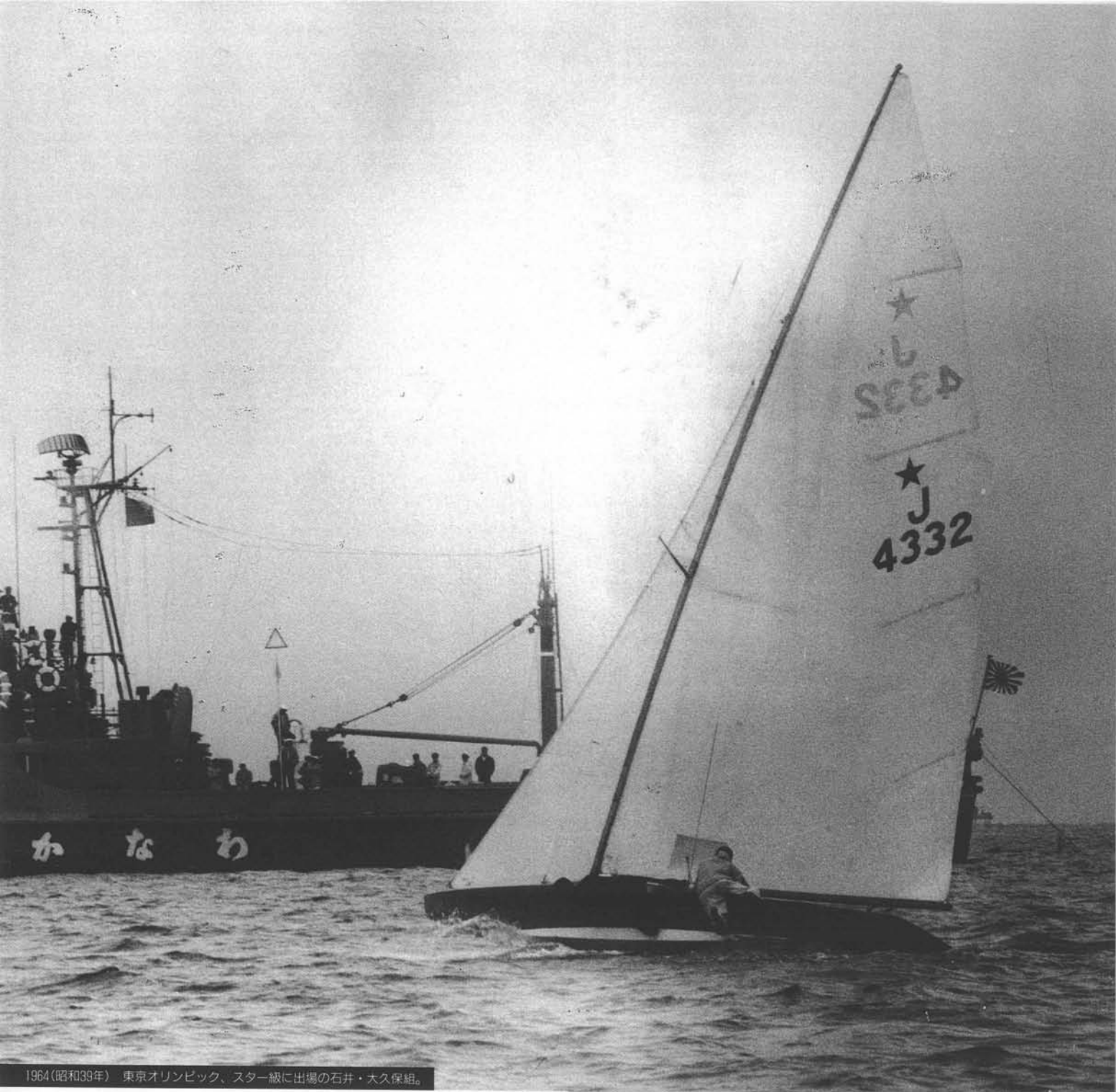
1950(昭和25年) 和歌浦での全日本大会。



横浜・新山下町の合宿所。1951〜1964年の間使用。



1959(昭和34年) 人命救助で表彰された、アーゴノートII号メンバーと高村塾長。



1964(昭和39年) 東京オリンピック、スター級に出場の石井・大久保組。



1971(昭和46年) 三浦市三戸浜に新合宿所完成。



三戸浜練習海面より合宿所(右奥の平屋建て)を望む。



1976(昭和51年) 早慶戦470級の熱戦。



三戸浜での合宿風景。

1932・2・17 水泳部内のヨット同好者、部内に慶應ヨット倶楽部を結成。/11・27 日本ヨット協会設立。

1933・11・3 第1回全日本学生選手権大会(以下全日本)品川沖で開催。使用艇は国際単一型A級ディンギー(以下A級)。塾チーム優勝し、全日本初制覇。

1935・5・12 第1回早慶ヨットレース(以下早慶戦)本牧沖で開催、85-79で優勝。/8・3 第3回全日本(横浜)再び優勝。

1936・11 慶應ヨット倶楽部は水泳部から独立、塾内対抗競技部新種目団体に加盟。佐藤潔水泳部長が部長を兼任。ベルリンオリンピックに水泳部OB吉本祐一君がヨットチーム監督として遠征。

1937・5・8~9 第3回早慶戦(第27回まで横浜で開催)116-114で優勝。/7・11 関東学生選手権大会(以下関東、第30回まで横浜で開催)で優勝。/10・5 佐藤部長退任、

藤林敬三部長就任。

1938・1・24 ヨット部として体育会に正式加入。/5・7~8 第4回早慶戦、128-83で優勝。/6・12 関東優勝。/7・22~23 全日本(横浜)優勝。体育会ヨット部として全勝でスタートした。

1939・5・20 横浜港で練習中、天候の激変により遭難事故発生、滝重雄、中西啓二の両君を失う。/10・4 ヨット部後援団体としてOBによる三田帆友会発足。/9・24 全国学生ヨット連盟創立。

1940・7・24 全日本(西宮)優勝。横浜新山下町のヨットハーバー完成。東京オリンピック中止。

1942・5・9~10 第8回早慶戦、247-138で優勝。/6・28 関東優勝。/7 戦前最後の全日本(横浜)2位。/8 神宮国体海洋競技大会(横浜)優勝。同志社定期戦開始。

1943・5・9~10 第9回早慶戦、72-56で

優勝。/5・23 関東2位、両レース共一団となって帆走する船団方式が一部に採用されレースが奇形化、かつ戦前最後のレースとなる。/12・1 学徒動員令により部員多数が陸海軍に入隊。

1944 レースは一切中止となったが、塾ヨット部のみ横浜貯木場付近の狭い海面で練習続行。/7 遊船禁止令により練習は全く不可能となる。

1945 終戦により横浜ヨットハーバーを進駐軍が接収、セール2枚を除き艇、備品等一切消失。

1946 日本ヨット協会のA級ディンギーの配給を受け、ヨット部再建始動。

1947・6・6 再開された第10回早慶戦は惜敗(得点不明)。/6・22 再開の関東優勝。/8・15 再開の全日本(博多)優勝。

1948・5・8~9 第11回早慶戦115-97で優勝。ヨット協会および学生連盟でスナイブ



1991(平成3年) 関東学生スナイプ級の熱戦。



しぶきをあげる470級。



最近の関東学生選手権大会。参加校49校、1レースの出場艇数54艇と非常に大規模なレースとなっている。470級スタート直後の熱戦。

級を採用、翌年よりレース実施を決定。

1949・8・6～7 全日本(半田)A級にスナイプ級も加わり総合優勝。27フィートクルザーを購入、アーゴノート号と命名。

1950・5・6～7 第13回早慶戦 158-118.5で優勝。横浜ヨットハーバー収容解除。

1951・5・5～6 第14回早慶戦 144-127.5で優勝。／6 横浜山下町所在横浜セーリングクラブの建物を購入、合宿所として使用開始。

1952・5・3～4 第15回早慶戦 176-156で優勝。／6・13～14 関東優勝。／8・13 全日本(琵琶湖)優勝。／9 OB鎮目守治君、ワタリドリ号に乗り組み、セーリングによる初の太平洋横断に成功。

1953・5・2～3 第16回早慶戦 176-168で優勝。／6・13～14 関東優勝。(学生ヨット界の興隆に伴いレース出場校が急増、関東、全日本共に予選を経て決勝進出となったため、

1955年以降は両競技共上位入賞を年表に記載)

1955・5・7～8 第18回早慶戦、234-205で優勝。／6・1 三田帆友会の名称を三田ヨット倶楽部と改称。

1956・5・6 第19回早慶戦、227-155で優勝。／6・1 細谷英吉新ヨット部長が就任。／6・9～10 関東2位。／8・3～5 全日本(高松)2位。

1957・5・3～4 第20回早慶戦 200-111で優勝。／6・8 関東3位。

1958・5・3～4 第21回早慶戦 220-210で優勝。／10 体育会加入20周年式典を合宿所で挙行。

1959・6・13 関東3位。

1960・6・18 関東優勝。法政OB所有のクルザーを購入、アーゴノートIIと命名。ローマオリンピック、ドラゴン級にOB石井正行君、鈴木節郎君出場。

1961・5・28 アーゴノートII号は大島レース途上漂流中のサガミ2号を救助、高村塾長より表彰されると共に小泉元塾長から“衷心から敬意を表する”旨のお手紙を頂く。／10・19 部員三井高具君、横浜港外で練習中転覆遭難、一命を失う。

1962・5・5～6 第25回早慶戦 351.25-320.25で優勝。

1963・5・4～5 第26回早慶戦 330-328で優勝。／3・20 三田ヨット倶楽部会長坂倉隆吉君より平松栄一君に代わる。

1964 横浜港外の埋立工事が始まり、この年からレース海面使用不能となる。／10・10～21 東京オリンピック(江ノ島)スター級にOB石井正行君、部員大久保隆史君、ドラゴン級にOB棚町三郎君出場。

1965・4 金子芳雄新ヨット部長就任。

1966・5・14～15 第28回早慶戦(第33回まで葉山で開催)329.75-323.25で優勝。6



学生ヨットレースの使用艇。国際12フィートA級ディンギー。一枚帆、オープンデッキという古典的な艇だが、学生ヨットの主力艇として創生期～1972年まで活躍した。



学生ヨットレースの使用艇。スナイプ級。1949年より現在に至るまで使用、その間艇体、機装品、セール等の技術革新により大幅に性能が向上した。



学生ヨットレースの使用艇。470級。1973年より現在に至るまで使用、スピンナーカー、トラピーズを装備しスピードを追求した艇種である。



最近の関東学生選手権大会。出場艇数54艇。スナイプ級のスタート直前。

大学戦開始。

1967・5・6～7 第29回早慶戦 352-324で優勝。6大学戦優勝。

1968・5・4～5 第30回早慶戦 361.75-310.25で優勝。

1969 この年以降レース得点は減点法に改正。6大学戦優勝。関東優勝。

1970 関東3位。

1971・5・1～2 第33回早慶戦 179.25-262.75で優勝。／6・11 三浦市三戸浜に待望の新合宿所が完成。全日本(鬼ヶ崎)A級で優勝、これにより小泉体育賞を受賞。

1972・4 救助艇日吉丸建造。／5・6～7 第34回早慶戦(以降三戸浜で開催)171-267で優勝。

1973・9 山崎努新ヨット部長が就任。A級のレースが廃止、代わって国際470級採用。

1974・5・4～5 第36回早慶戦 59.5-66.5で優勝。

1975・5・31～6・1 第37回早慶戦 144-152で優勝。

1980・5・31～6・1 第42回早慶戦 148.25-152.25で優勝。全日本(西宮)総合5位。

1981 関東3位。6大学戦優勝。全日本(小戸)総合7位。

1982・9 ヨット部創立50周年記念式典並びに祝賀会、石川塾長他を迎え盛大に挙行。

1983・4 箕輪秀二新ヨット部長が就任。

1984 ヤンマー製救助艇日吉丸進水。／8 高校早慶戦開始、初戦勝利。

1985・6・1～2 第45回早慶戦 145.25-152.25で優勝。立命館定期戦開始。全日本(江ノ島)総合6位。

1986・6・7～8 第46回早慶戦 147.25-152.25で優勝。全日本(小戸)総合9位。同志社定期戦20年ぶりに再開。

1987・6・6～7 第47回早慶戦 78-78で史上初の引き分け。6大学戦優勝。全日本(琵琶湖)総合8位。

琵琶湖)総合8位。

1988・6・4～5 第48回早慶戦 69.5-73.5で優勝。6大学戦優勝。全日本(宇品)総合6位。

1989 全日本が秋季開催となる(江ノ島)総合9位。三田ヨット倶楽部会長、宮下四郎君に代わる。

1990・3 ヤマハ製救助艇新日吉丸進水。全日本(江ノ島)総合9位。伊藤・石黒組が全日本個戦優勝により小泉体育賞、山田・長島組が関東個戦優勝により同努力賞を受賞。

1991・6・1～2 第55回早慶戦 101-187で優勝。通算成績は本塾の28勝22敗1引分。／4 早野勝巳新ヨット部長が就任。関東、20年ぶりに総合優勝。／7 三田ヨット倶楽部会長が河本文彦君に代わる。